

市長定例記者会見（令和5年5月22日）録

11時30分～12時08分

題材に入ります前に、本市出身の元プロ野球選手の中西 太様の御逝去の報に接し、一言申しあげたいと思います。

先週18日（木）、突然の訃報に接しまして、私自身大変、残念な思いでございます。

報道等で、中西さんの野球界での御活躍された輝かしい功績を目のあたりにし、また、高松市民を始め、球界関係者の皆様方からも、悼む声が相次いで聞かれ、あらためて、中西さんの偉大さを感じ入っているところでございます。

中西さんは、ご承知の通り、高松一高出身でございまして、一高のとき、甲子園に、春夏あわせて3度出場し、夏の大会では、2度の4強入りに貢献され、球場を沸かせる、力強い打撃、攻撃から、その当時、「四国の怪童」と呼ばれておりました。

その後、昭和27年に香川出身の三原 修さんからの熱心な誘いがあり、西鉄ライオンズ（今の西武ライオンズ）に入団されますと、高卒ルーキーとしては異例の、即レギュラーの座に定着します。そして史上最年少の20歳で、「トリプルスリー」という3冠、いわゆる3つの3割30本以上といったようなトリプルスリーを獲得しましたほか、4年連続を含みますホームラン王5回、首位打者に2回、打点王に3回輝き、まさに不滅の大記録を達成されたところでございます。「怪童」と現役時代呼ばれていたわけでございますけれども、中西さんの、うなるスイングと打球の速さはけた外れでございまして、数々のエピソードがございます。例えば、若干20歳にして放った160メートル越える超特大ホームランを始めとして、「遊撃手（ショート）が、ジャンプして届かなかった打球が、ぐんぐん伸びてホームランになった」といったような、強打を物語る逸話は、枚挙にいとまがなく、その豪快な打撃で多くのファンを魅了されておったところでございます。

引退後も、打者の育成の手腕が高く評価されまして、有名なところでございますけれどもイチロー選手でありますとか、あるいは岩村選手、本市と姉妹都市であるセント・ピーターズ・バーグのレイズで活躍した岩村選手も中西さんの弟子であったということでございます。数多くの名だたる選手を育て上げた監督、コ

一子として、プロ野球の発展にも御尽力され、平成11年に、野球殿堂入りを果たされたというものでございます。

私が、中西さんに、最初にお会いしたのは市長になってすぐでございまして、ちょうど16年前でございます。中西さんから、西鉄時代のユニフォームや、ホームラン王のトロフィーとかをご寄贈いただけるというお話があって、その打ち合わせ、あるいは寄贈式典等に参加して会ったというものでございます。

その寄贈式典でございますが、中央公園のところに、昔の中央球場のホームベースがあったところがベース跡として残っておりますので、そこで中西さんからの寄贈式典を行わせていただいたところでございます。

その際、当時私もまだ就任したばかりで40歳代でございましたので、「若い市長だね」と、「頼むよ」というような笑いながら声をかけていただいた、というのが印象に残っておるところでございます。

これがご縁で、その後も、度々、お会いする機会がありました。特別観光大使にもなっていておられますので、東京で観光大使の会などでは、ほぼ毎年来ていただいて、いっしょに食事をしながらお話をさせていただいたところでございます。

半分以上、野球の話が多かったわけでございますけれども、中西さんがいつも色紙に書かれています「何苦楚（なにくそ）」という文字があります。何、と、苦しい、と、楚というのは礎の石へんをのけた、四面楚歌の楚ですね、「今の苦勞が、将来の礎になる」といった意味だそうですけれども、それで「何苦楚（なにくそ）」という言葉とかけて、そういう文字を送られておりました。そういう言葉を中西さんが非常に大切にされてこられた、という話が今でも心にのこっているところでございます。

先ほども話しましたがけれども、中西さんから寄贈いただいた、トロフィーなどは、中西さんの功績などを、野球好きの子どもさんたちを始め、広く市民の皆さんに触れていただくということで、「“怪童”中西太記念コーナー」を子ども未来館の中に開設して、今でも展示をしております。

これも、中西さんが、生まれ育ったのが松島町でございまして、こども未来館のあるところ、地元でございます。よくその松島町の家から中央球場までは走って通っていたという話も聞かされておりますけれども、こういう地元でありま

す、こども未来館の松島町、その前進であります高松市市民文化センター内に、「怪童」中西太記念コーナー」平成20年4月に開設したわけでございます。それがこども未来館に変わっているというわけでございます。この名称でございますが、中西さんが、「怪童」という、あだ名で呼ばれていたことから、そのまま「怪童」中西太記念コーナー」というふうにしたところでございます。

コーナー内には、寄贈品、約50点のほか、日本シリーズやオールスター、オープン戦などの、当時の貴重な記録映像も見ることができます。

この機会に私も時間を見つけて、見に行きたいと思っておりますけれども、ぜひ、多くの市民の皆様、中西さんが残した功績や活躍の軌跡を偲んでいただければと思います。

改めまして、高松市民に夢と感動を与えてこられましたことに、心より感謝を申し上げまして、またこれまでの御功績に敬意を表しますとともに、心から御冥福をお祈り申し上げたいと思います。

それでは、題材に入らせていただきます。スライドをご覧ください。

今日は3点でございます。「令和5年度5月臨時補正予算案の概要について」と「令和4年度市民満足度調査結果について」、「令和5年度高松市総合防災訓練について」の3点でございます。

まずはじめに、5月の臨時補正予算案の概要でございます。物価高騰に直面し、特に家計への影響が大きい低所得世帯や事業者等への支援事業を始め、小学校など、学校における新型コロナウイルス感染症への対応、また、子どもの医療費の助成拡充といった、子育て支援策の充実に対しまして、総額で、25.7億円、給食費の保護者負担の軽減を勘案しますと事業費規模といたしましては、30.7億円の予算編成を行ったものでございます。

まず、電気や食料品などの物価高騰対策関連予算（23億2千万円）でございますが、このうち、市民への支援（18億円）といたしましては、物価高騰の影響を特に受けている低所得世帯の生活・暮らしを支援するため、住民税非課税世帯に対し、1世帯当たり3万円を支給するほか、小・中学校における1学期相当

分の給食費、具体的には6月、7月、9月の無償化するとともに、食物アレルギー等でお弁当を持参している児童生徒に対しまして、給食費相当分を給付いたします。

さらに、省エネ家電の購入を補助し、生活支援とともに、脱炭素への意識の醸成も図ってまいりたいと考えております。

続いて、事業者への支援（5億2千万円）でございますが、中小企業等におけるエネルギーコストの高騰による利益圧縮を緩和し、本市の経済回復を加速させるとともに、GX（グリーントランスフォーメーション）を推進するため、省エネ化・コスト削減機器等の導入を支援するほか、昨年度から引き続き、燃料費高騰分を入浴料金に転嫁できない、市内の一般公衆浴場8事業者に対し、燃料費の価格高騰相当分を支援するほか、事業運営に影響を受けた医療機関や福祉施設等に対しても、支援金を給付するものでございます。

なお、令和5年度からは、新たに、放課後児童クラブや子ども食堂などを対象施設に追加し、制度拡充を図っております。

また、農畜水産業者の事業継続を図るため、事業者の経営費用の一部について支援金を給付するほか、令和5年度に保険適用となる農業経営収入保険の新たな加入者に対し、保険料の一部を補助いたします。

次に、新型コロナウイルス感染症対策関連予算（1億円）でございます。

今月8日から、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5類に引き下げられ、感染対策は個人や事業者の判断ということでございますが、新型コロナの特徴を踏まえた基本的な感染対策として、引き続き、市内の小・中学校や、高松一高におきまして、効果的な対策といたしまして、空気清浄機やCO2モニターなどを整備いたします。

最後に、子育て支援策の充実（1億5千万円）といたしまして、8月から、子ども医療費助成の対象を、高校生までに拡充いたします。15歳の年度末から18歳の年度末まで拡充するというところでございます。

以上が、令和5年度5月臨時補正予算案で、概要を簡単に御説明いたしました。私といたしましては、引き続き、新型コロナの感染対策とともに、コロナで傷ついた地域経済の立て直し、また物価高騰の影響を受ける市民生活の支援などを、積極的に行ってまいりたいと存じます。

とりわけ、人口減少・少子化の進行が懸念されておりますが、本市におきましても、特に、「子ども・子育て支援施策の充実」を喫緊の最重要課題と位置付けておりまして、「子育てするなら高松市」と言えるような制度づくりを進めてまいりたいと考えております。

本市では、支援策につきましては、「妊娠・出産」から、子どもの成長に応じた切れ目ない子育て支援に取り組んでおりますが、令和5年度の当初予算と、この度の臨時補正予算において、新たな新規・拡充事業等を、「令和5年度高松市すくすく子育て支援パッケージ」として取りまとめております。

資料にございますように、妊娠・出産期から高校生までの間、「出産・子育て応援給付金」から始まり、「保育所等での使用済み紙おむつの処分」や「ヤングケアラー支援」のほか、「子ども食堂等支援」や「生活困窮世帯等の中学生学習支援」等を掲げております。これらの予算額等を合計いたしますと、総額で約34億2千万円となるということでございます。

今後におきましても、子育て支援策を、最重点施策の一つに位置付け、多子世帯や配慮を必要とする子ども等への支援や、保護者の負担軽減など、未来を担う全ての子どもが、地域社会の一員として健やかに育つための施策を、より一層、推進してまいりたいと存じます。

なお、以上、5月臨時補正予算案の概要を御説明いたしましたが、詳細につきましては、本日午後2時30分に、財政局から御説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

続きましては。本年1月に実施いたしました、「令和4年度の市民満足度調査」の結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

本市では、毎年、市民の皆様の御意見を、今後の市政に反映させるため、「高松市への愛着度」や「住みやすさ」などのほか、総合計画の基本構想で定めている60項目の施策について、満足度等を調査しております。

今回の調査の概要でございますが、対象者は、住民基本台帳から無作為抽出した満18歳以上の市民2,500人、期間は、本年1月15日から1月31日までで、回答者は、921人、回収率は、前回より2.9ポイント高い、36.8%となっております。

調査結果の詳細につきましては、お配りしております資料を御覧ください。では、簡単に説明させていただきます。

まず、本市への愛着度などに関する質問では、8割を超える人が、高松市に愛着（84.5%）や住みやすさ（86.9%）を感じていると回答しております。昨年度の数値を下回ったものの、依然として高い結果となっております。

特に、愛着度では、18歳から29歳までの若い層の、高松に愛着を感じていると回答した割合が、昨年度より7.5ポイントの増となっております。

また、定住の意向については、「ずっと住み続けたい」、「住み続けてもよい」と回答した割合が、86.7%となっており、昨年度に比べて1.7ポイント減少しておりますものの、18歳から29歳までの若者については、その割合が、昨年度より5ポイント増えております。

続いて、施策全体に対する満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた「満足度」は、26.9%、「不満」と「やや不満」を合わせた「不満度」は、17.8%となっており、いずれも昨年度に比べ、大きな変化はございませんでした。

また、各施策の満足度でございますが、昨年度との比較で、「地球温暖化対策の推進」などの『満足度』が増加した一方で、「拠点性を高める道路ネットワークの整備」や「拠点性を高める交通網の整備と利用促進」の『不満度』が増加しております。

次に、各施策の満足度と重要度の関係でございますが、満足度・重要度がともに高い『領域A』に分類される施策数は、昨年度と比べ、3施策減り12施策となっております。

また、重要度が高いが満足度は低い『領域C』に分類される施策数は、5施策増えて、18施策となっておりますが、「子どもの成長への支援」や、「子育て家庭への支援」「学校教育の充実」「青少年の健全育成」が『領域A』から『領域C』に移動しております。

子育て・教育分野は、市民の皆様にとって身近で関心があるため、重要度が高いものの、満足度がそれに相応しい結果となっていないため、その原因の分析と取組内容等の改善を進めてまいりたいと思っております。今後この辺につきましても、先ほどの、子ども子育て施策がでてまいりましたが、重点的に満足度を向

上させるように努めてまいりたいと考えております。

今回の調査結果を受けまして、新たな事業の実施や現行事業の拡充・見直しも行ってまいりたいと思っております。市民の皆様が安心して暮らすことができ、また、誰もが暮らしたい、訪れたいと思えるような魅力あるまちづくりに、引き続き、取り組んでまいりたいと思っております。

最後3点目は、災害に強い地域づくりに向け、防災関係機関や団体と連携して総合防災訓練を実施するものでございます。

この訓練は、2年に1度、開催しておりますが、今年度は、6月11日（日）午前9時から香川県消防学校におきまして、本市消防団を始め、高松市自主防災組織連絡協議会や、NTTドコモ、香川大学医学部附属病院など、26の関係機関等が参加し、実施いたします。

訓練の内容といたしましては、本市で震度6強の地震が発生し、ライフラインが寸断、高層ビルが座屈し、火災が発生したとの想定で、初期消火のほか、配電線の復旧、要救助者の救出搬送などの、地震対策訓練を実施いたします。

また、大型で強い台風の接近により、倒木や、河川堤防の決壊が発生したとの想定で、倒木撤去や、浸水により孤立した要救助者の救助といった、風水害対策訓練を実施いたします。

なお、今回は、昨年度、運航を開始いたしました、香川県ドクターヘリによる、要救助者の搬送訓練も併せて実施いたします。

今後とも、市民皆様の生命と財産を守るため、災害時に、迅速な対応が行えるよう、県や関係機関と連携を強化してまいりたいと考えております。

【記者質問】

【記者】

公共交通の運賃値上げによる市民の負担増加に対する受け止めと、今後の支援策は

【市長】

公共交通につきまして、JR四国及び高松琴平電気鉄道につきましても値上げの申請がなされたということでございます。原油価格の高騰コストの増加等やむを得ない事情があろうかなと思っておりますが、ご承知のとおり、昨日のG7のシンポジウムでも出ていましたが、本市の場合、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの考え方の下に、公共交通を軸としたまちづくりを掲げて取り組んでいるところでございます。従いまして、市民の皆さまに快適に公共交通を利用していただく環境づくりを非常に重要視しているところでございます。

そういう中での値上げということでございますが、値上げ自体コロナ禍の影響ということで非常に厳しい状況のもとでの判断ということで、「いたしかたない」とは考えていますが、市民の皆様への負担が増加するものでございまして、それについて値上げによる利用者サービスの向上の対する取組みを推進していただくなど、これまで以上に徹底した経営努力も行っていたきたいと思います。

今回の値上げに対しまして、特別に何らかの措置を市として行うということにはございませんが、本市の場合公共交通を軸にしたまちづくりをテーマでやってきているので、さらなる公共交通の利便性の向上や、利用促進の促進につきまして、今後とも交通事業者と協議を進めながら、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。より利用しやすい公共交通、またそれが好循環に働くような形、そういう施策展開というものを今後とも考えていきたいと思っております。

【記者】

5月臨時補正予算案の編成で重視したことは

【市長】

コロナ禍も3年が過ぎまして、感染症法上の扱いも2類から5類に引き下がって、いわば日常的な対応になるということではございますけれども、まだまだ市民の生活面、事業者の経営面においてやはり厳しい状況が残っているということ

で、それをどうにか少しでも支援をしたいというので、今回それぞれの項目につきまして、市民生活への支援、事業者への支援という形で、必要な補正予算を組まさせていただきますというところでございます。

また、コロナ禍と同時に物価高騰もございますので、物価高対策ということも十分に加味をさせていただいたというところでございます。生活者の支援という意味では、一律の生活困窮者、低所得者に対する給付金の支給もでございますけれども、特に子ども子育て世帯への支援ということで、給食費の1学期相当分の減免でありますとか、そういうものも織り込ませていただいて、子ども子育て支援に重点をおいたような対策を作ったつもりでございます。

また事業者支援につきましても、どうしても価格転嫁が十分にできないような業種等々についてきめ細やかな対策として措置をさせていただいたと思っております。

【記者】

5月臨時補正予算に対する考え

【市長】

コロナ禍が起こってから3年以上が経ち、非常に長くに渡っている、その都度必要な対策ということで、国・県の色んな対策、それに呼応して市としても連携、補完するような対策を講じてきたわけでございますけれども、ここにきてはまだ十分ではないという声もありますし、実際選挙運動、選挙やっている中でもいろんな人からまだまだ厳しい状況が続いているというお話も聞いたところでございます。そういう中で必要な措置ということで、市民生活をどうにか支援するような措置と、事業者の、特に中小事業者、あるいは価格転嫁できないような業種の事業者に対する支援といった形で、今回ある程度取りまとめさせていただきました。

【記者】

住民税非課税世帯への支援金の支給世帯数は

【担当課】

1世帯あたり3万円で、5万世帯を予定しております。

【市長】

住民税非課税世帯への支援金の支給開始時期は

【担当課】

確認書を7月3日から順次発送し、最初の支給は7月中旬ごろを予定しております。

【記者】

市立小中学校で1学期相当分の給食費を無償化するが、期間を延長する考えはないのか

【市長】

給食費につきましては物価高騰の影響があるということで、子育て世帯への支援として令和4年度の3学期分についても無償化したところでございます。今回それにつきましても、まだまだ厳しい状況があるということで臨時的なものとして、国の交付金を活用して措置をしたというものでございまして、あくまで臨時的なものということで交付金の範囲内、交付金の措置状況等も踏まえまして3か月分とさせていただいたところでございます。

今年の10月以降につきましては、本来の姿ということになりますので、学校給食法に基づき、保護者の皆さまから給食費をいただいて、それによって学校給食を提供するということになろうかと思っております。

【記者】

長期化が予想される物価高騰に対する今後の対策は

【市長】

現状の状況に鑑みて今回措置をしたわけでございますので、今後の状況どうなるかっていうのはその時々に応じて必要な対策はとっていきたいと思っております。給食費について言いますと、そもそも給食費につきましては国が進めております少子化対策の試案の中で学校給食の無償化が盛り込まれておりまして、今後それについて議論がなされると思っております。従いまして、議論の方向等を踏まえながら給食費等の無償化については判断してまいりたいと思っております。

【記者】

遮断機等のない「第4種踏切」で事故が相次ぐ中、鉄道事業者と地元住民の協議に市が関わっていく考えは

【市長】

危険な踏切というのは、小さい踏切で遮断機がきちっと整っていない、住民の通路として重要な役割を果たしているというところで、通行量も多く危険だという踏切がほとんどだと思っておりますので、いわば地域住民の方が納得していただけるような安全対策を講じていく必要はあるかと思えます。ただ、踏切の安全というのが第一でございますので、その辺について単純に閉鎖するのがいいか、踏切によってはやり方はあろうかと思えますので、その辺の話が事業者と住民の間でうまく進められるように、コミュニティ協議会を通じて市としても色々働きかけをしてまいりたいと思っております。

【記者】

市民満足度調査の結果に対する市長の受け止めは

【市長】

市民満足度調査は毎年行いまして、このように分析をしながら考えてきていますが、今回1つは回収率が上がったということについては良かったかなと。それだけ市政への関心が高まってきているかなと。ただ特に重要とされる施策について、満足度が下がる施策が5つもあったということで、特にそういうの中には小中学校の教育とか、あるいは子育て支援に対する負担の問題などそういう項目があったということでございまして、まさに我々が今から力を入れようとしているところがそこに現れているので、しっかりとその辺には力を入れて満足度が上がるようにしていかなければならないという思いを持っています。

そのように毎年毎年分析を通じて、必要な施策、重点をすべき施策等について勘案しながら予算等に反映していきたいと思っております。今年の結果もそういう意味でじゅうぶん参考にしながら、予算、施策等に反映させていきたいと思えます。

【記者】

市民満足度の住みやすさの評価が下がっているが、その受け止めは

【市長】

毎年の抽出調査なのであまり細かな数字が上がった下がったというのには、それほど気にしないようにしたいと思っておりますが、傾向として公共交通の満足度が低いというのかここ数年、傾向として続いておりますので、満足度が低いというのは逆に言えば、もうちょっとちゃんとやってくれという期待度の表れでもございますので、その辺については施策、公共交通により力を入れてまいりたいと思っておりますし、住みやすさという面におきまして、下がっているといってもレベルとしては高いのを維持できていると思っておりますので、それほど悲観することはないかなと思っておりますが、住みやすさを100%に持っていきたいということでございますので、100%すべての市民が住むことに誇りが持てる、住みやすいと感じられる、そういうまちづくりに一層努力してまいりたいと思っております。

【記者】

市民満足度の住みやすさの評価を100%にするために、どのような政策を強化していきたいか

【市長】

重要度は高いけれども満足度は低いような施策については充実をしていく、と。政策にメリハリをつけて、その辺の市民満足度を高めていくことが必要かなと思っております。そのことが住みやすいに繋がっていくと考えています。

【記者】

市民満足度の自由意見に保育料の無償化や給食費の完全無償化を望む声があるが、実施する考えは

【市長】

保育料や給食費についても、また医療費についても、負担感が高まっているということで、どうにか経済負担を軽減してほしいという市民の声があるということも十分踏まえた上で、そのような方向でできるだけの施策を展開してまいりたい

ということで、今回の予算を取りまとめさせていただきました。

市民の御意見をしっかりと受け止めさせていただいて、必要な施策、やるべきものについて施策展開をしてまいりたいと思っています。